

「平成」という時代が終わり、
新たに「令和」が始まりました。
新元号の由来は「万葉集」の
梅花の歌の序が出典と言われています。
これを機会に奈良時代の
日本最古の歌集「万葉集」を
読み直してみませんか。
今回は、旅人と憶良の和歌世界に
スポットをあて、
その魅力をやさしく解説します。



令和元年
(2019年)
7月 **20** 土日
13:30~14:30

参加費 **無料**
対象 一般
定員 先着**40**名様
所要時間 60分

参加
お申込 ☎ **048-786-6353**

または図書館カウンターにて承ります。受付時間 10:00~21:00
定員になり次第、受付を終了させていただきますのでご了承ください。



じつかわ けいこ
講師 **実川恵子**
文教大学教育学部教授

専門分野、研究テーマは、日本の古典文学で、特に中古文学の研究。
中でも女性の手による文学作品に興味がある。
三十一文字に自らの感性を凝縮させた和歌文学。今一番の関心は
革新的な歌風の「後拾遺集」。その筆頭歌人の和泉式部の歌に魅了されている。
また、老後の楽しみに俳句を始めた。句会のおもしろさは格別。